

近畿大学 教育論叢

The Research Journal of the Department of Teacher Education
Kindai University

第29卷第1号



2017

■ 近畿大学教職教育部 ■

近畿大学教育論叢

第二十九卷第一号

平成二十九年(二〇一七)九月

近畿大学教職教育部

 近畿大学

目 次

教員をめざす学生が「介護等体験」から得るもの

—「大学外の学び」が学生の視点を転換させ「感じとる力」を育てる—

What Teacher-Training Course Students Learn from the Practice

“KAIGOTOUTAIKEN”?:

Through the Experiences at Nursing Homes and Schools for Special Needs Education

……………山本 智子 (YAMAMOTO Tomoko)…… 1

法務省の「不登校」名称について

—逸脱から人権擁護へ子どもの捉え方の変容—

Consideration for Changes How the Ministry of Justice Has Taken Measures

to Support Those Who Do Not Attend School for a Long Time:

With Particular Reference to What the Ministry of Justice Meant
and Means by the Word “Futoko”

……………土方由起子 (HIJIKATA Yukiko)……13

英米文学への誘い^{いざな}

—教職課程における「英米文学概論」—

Introduction to English Literature:

English Literature Classes in a Teacher Education Course

……………堀 (山口) 緑 (HORI Midori)……31

大阪平野沖積層中の海成粘土層を認識させるボーリング資料の教材化

Developmental Teaching Materials of the Boring Materials to Realize

the Holocene Marine Clay Layer in the Osaka Plain

……………吉川 武憲 (YOSHIKAWA Takenori)……43

小中学校の統計教育における「知識の活用」の現状と課題について

—全国学力・学習状況調査を手がかりに—

On the Current Status and Issues on Utilization Knowledge

Statistics in Elementary and Junior High School

.....西仲 則博 (NISHINAKA Norihiro).....59

特別支援学級在籍児童の「数概念」の獲得に対する発達支援と「場」への支援

Developmental Support for Number-Concept Acquisition by Children

in Special Needs Classes and Enhancement of Their Learning Environment

.....仲川 宏美 (NAKAGAWA Hiromi).....79

編集発行内規

投稿要領

編集後記

『近畿大学教育論叢』編集発行内規

第1条 近畿大学教育論叢（以下「本誌」という）は、教職教育部が年1回以上発行する。

第2条 本誌の編集、発行の任にあたるため編集委員会を置く。

2. 編集委員会は、委員長1名、委員若干名をもって構成する。
3. 委員長、委員は、教職教育部教授会の承認を経て、教職教育部長が委嘱する。

第3条 投稿者（執筆者）は、原則として本学園教職員に限る。但し、編集委員会の議を経て教職教育部長により投稿を認められた者はこの限りではない。

2. 投稿者は、別に定める「投稿要領」に従って、原稿を作成することとする。

第4条 原稿の校閲および採否の決定は、編集委員会が行う。

2. 編集委員会は、投稿原稿の本誌掲載の採否を判断するため、審査を行う。
3. 編集委員会は、投稿者に対し、上記審査に基づき、内容の修正等を求めることができる。

第5条 編集発行内規の改正に関しては、編集委員会の議を経て、教職教育部教授会で決定する。

第6条 当該原稿の著作権は、著作者および共著者に帰属する。

2. 著作者および共著者は、当該原稿に係わる複製権、公衆送信権及び譲渡権の許諾を近畿大学に与えるものとする。
3. 近畿大学が当該原稿の電子化・公開を委託する機関に対して、公衆送信権および複製権の許諾を与えるものとする。

附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

『近畿大学教育論叢』

(The Journal of the Department of Teacher Education, Kindai University)

投稿要領

- 1) 原稿は未発表のものに限る。
- 2) 原稿は原則として、ワープロを使用して作成、提出するものとする。
- 3) 原稿締め切り時に、原稿をコピーしたものを3部、提出する。査読終了後、掲載が決定した論文については、コピーした原稿1部と、訂正したデータをメールで編集委員会に提出する。
- 4) 原稿には表紙を付し、次の事項を記入する。
 - イ. 表題 (含む副題)
 - ロ. 表題の英文 (含む副題)
 - ハ. 氏名、所属、職名
 - ニ. 連絡先 (教職教育部の専任以外の投稿者の場合、メールアドレスを含む)
 - ホ. 別刷りの必要部数 (規定部数を50部とし、それを超える分は自己負担とする)
 - ヘ. キーワード (5個以内)
- 5) 用紙はA4判を用い、原則として横書きで原稿を作成する。40字×30行の書式で、原則30枚以内とする。
- 6) 手書きの場合は、投稿者は編集委員会に申し出る。前項の字数を超えないことを条件に、書式、枚数などを協議する。
- 7) 本文中で、活字の大きさ、書体を変える場合は、具体的に指示する。
- 8) 表、図、写真などは、刷り上がりの大きさを指定し、具体的に指示する。
- 9) その他原稿の投稿に関しては、編集委員会で協議する。
- 10) 投稿原稿の執筆は、次の通りに行う。
 - ①英文の題名、副題、著書名については、すべての単語 (前置詞および、冠詞 the などを除く) の最初を大文字にする。
 - ②英文論文題名の副題は、コロン (:) で分ける。
 - ③和文の句読点は、(、) (。) を用いる。文献では、コンマ、ピリオドを認める。
 - ④図は、Figure 1、Figure 2 あるいは、図 1、図 2 とし、表は、Table 1、Table 2 あるいは、表 1、表 2 のように通し番号をつけ、論文内で統一された表記を使用する。
 - ⑤必要に応じて大見出し、中見出し、小見出しを用い、その表記は次のようにする。

大見出し 1, 2, ……

中見出し (1), (2)……

小見出し ①, ②……

⑥引用文献・資料は、以下のように記述する。なお注について文献を示すことも可能とする。

著書名、発行年、題名、出版社、引用ページ数（頁、ページ、p など）

⑦引用論文の表記については、次の順に記述する。

著書名、発行年、論文名、雑誌名、ページ

平成29年7月1日 改訂

編集後記

平成29年度の近畿大学教育論叢第1号を発行することになりました。本号は6本の論文を掲載しております。年度初めのご多忙の中、原稿を執筆下さった先生方には心より感謝申し上げます。

まず、教職を志す本学の学生が3、4年次に行う「介護等体験」を、学生の「感じとる力」を育成する学びの機会として捉え、その意義を論じた山本論文や、「不登校」という名称変更の背景に人権擁護の捉え方があることを指摘し、不登校問題を捉える上での重要な視点として評価した土方論文は、教職にとって人間理解がいかに重要であるかを改めて教えてくれるでしょう。

そして、教職課程の「英米文学概論」の授業実践に触れながら、履修学生の課題を踏まえた効果的な指導方法を提示した堀論文では、大学教員としての授業研究の在り方を考えさせられます。また、映像資料で学生の興味・関心を喚起するとともに、そこから英米文学の学修において押さえるべき点を巧みに引き出していくという手法は、他分野の授業においても示唆に富んでいます。

さらに、中学校理科の単元「地層の重なり」においてボーリング資料を利用した学習の効果に注目し、その教材化を試みた吉川論文や、小・中学校における統計教育の「知識の活用」に焦点を当て、全国学力・学習状況調査の結果に拠りながら現状と課題を分析した西仲論文、特別支援学級におけるA児への発達支援の実践から、数概念の獲得における効果的な支援の方法について考察した仲川論文では、学校教育現場での利用や課題解決に直結する実践的な研究成果が示されています。学習指導要領の改訂に係り、今後の展開が期待される論文です。

以上の論文はいずれも、各先生方の研究や教育に対する熱意を感じさせる力作です。ぜひご一読願います。

今号には、非常勤の先生方からも投稿いただきました。査読にあたり、「ご指導よろしくお願ひします」というお言葉を頂戴しました。「指導」と言われると恐れ多いのですが、お互いの研究関心を交流し合い、異なる視点からの指摘や助言を得ることは、時に行き詰ってしまう研究の風通しをよくし、新たな発想や思考をもたらす刺激になるのかもしれませんが。研究成果の発表だけでなく、学び合い、高め合いの機会として、『近畿大学教育論叢』をご活用いただければ幸いです。

近畿大学教育論叢編集委員会

光田尚美、小口功、辰己勝、下村隆之

近畿大学教育論叢 第29巻第1号

平成29年9月30日 印刷

平成29年9月30日 刊行

発行人 近畿大学教職教育部長
戸井田 克己

発行所 近畿大学教職教育部
577-8502

東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学管理部用度課(出版印刷)
